

令和元年 9月 定例会

◆（淵上陽一君）3点目は、**中山間地域の振興について**お尋ねいたします。

本件は、県議会においてたびたび取り上げられてきた重要な案件であり、私も、4年前、人口減少から波及するさまざまな問題の一つとして、中山間地域を初めとする条件不利地域における人・農地プランの推進と土地利用のあり方について質問いたしました。

人・農地プランは、農業従事者の高齢化、後継者の不足、耕作放棄地の増加など、人と農地の問題が深刻化し、5年後、10年後の農業の展望が描けない地域がふえる中で、地域が抱える人と農地の問題を解決していくためには、今後中心となる経営体、個人、法人、集落営農はどこか、中心となる経営体へどうやって農地を集めるか、中心となる経営体とそれ以外の農業者を含めた地域農業のあり方について、地域で話し合っってプランをつくり、実行していこうというものであります。

その意味で、人・農地プランは、地域の農業、農村を将来に引き継いでいくための未来への設計図であり、平たん地と中山間地域とを問わず、今後実際に農地を集積していく際の真の意味での設計図となるように、しっかりと取り組み、検証し、見直しを行っていかねばなりません。

さて、熊本県においては、中山間地域が県土全体の7割、農用地全体の4割を占めていることから、田畑の面積が狭く、大型農業機械が使いづらいために、コスト削減もままならない状況にあります。

加えて、産地間競争の激化に加え、日米貿易交渉、TPP11、日・EU・EPAなどにより、グローバル化による影響も大きく受けるのではと憂慮されております。さらに、ふえ続ける鹿、イノシシ、猿など、深刻な鳥獣被害への対応も急がれます。

こうした状況にあって、平成12年度から実施されている中山間地域等直接支払制度は、平成27年度から施行された農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律に基づいて、農村が果たしている多面的機能を確保するため、中山間地域の耕作放棄地を防止し、耕作条件が不利な農用地の維持管理や農業生産活動を継続的に行う協定集落に対して、面積に応じて一定額の交付金が支払われる制度の実施が進められています。

我が国が人口減少社会への対応を迫られる中、多くの中山間地域では、高齢化や人口流出に伴って活力が低下しており、農業を支える担い手の確保も厳しさを増しております。

こうした地域では、限界集落を超え、消滅といった表現も出ているほど、中山間地域を支える人材の確保が難しい状況になりつつあり、農業のみならず、地域自体を誰がどのようにして守っていくのかという深刻な課題に直面している地域もふえ続けております。

そのような中、私の地元山鹿には、生産条件が不利な中山間地域でも、有機農業でしっかりと顧客をつかんで所得を確保したり、観光産業との複合経営を通じて交流人口をふやしていることで、稼げる中山間地域を実現している方々もおられ、そこにはしっかりと後継者が育っておられます。

また、別の地域では、農業者の高齢化が進む中、地域の農地を守り、農業を継続していくために、地域のリーダー的な方々が、農業に必要な機械や設備を準備した上で、土地利用型農業の担い手となる若者をみずから確保し、集落全体でその担い手を守り立てていこうという動きを進められているところも出てきています。

このように、中山間地域の中に担い手や地域を動かすリーダーの存在があることが理想的でありましょうが、それを実現できているところは非常に少ないという厳しい現実の中で、中山間地域の活力を維持していくためには、地域や集落内の住民に加えて、地域外、集落外の人たちにも加わってもらい、地域の活動や存在を支えてもらう人材を確保する方策はないものかと考え続けております。

中山間地域が健全な姿で生き残っていくためには、そこに住んでおられる方々が、みずから夢を描き、それを実現していく体制を整えることが最も重要であることは申すまでもありません。

そのためには、広域本部を初め、振興局や各市町村、また、地域JAや森林組合を初めとする農林業団体や各種業界団体の協力を得て、官、民、団体、個人を問わず、また、農業の分野のみならず、中山間地域にある森林、自然、環境、景観、さらには文化、伝統など、地域資源を余すところなく活用することを通じて、資源を所得に結びつけ、地域の価値を上げるために、さまざまな知恵の掘り起こしと活用を広げていくことがいよいよ急務ではないかと、今強く感じているところであります。

中山間地域の振興には、地域の魅力を稼げる仕組みにするための知恵と、それを動かす人が重要だと思いますが、県では、地域の知恵を導き出し、それを広めていくためにどのような取り組みを進められているのか、また、地域を支える人材をいかにして確保していこうとされるのか、農林水産部長にお尋ねいたします。

〔農林水産部長福島誠治君登壇〕

◎農林水産部長（福島誠治君） 中山間地域の振興には、議員御指摘のとおり、地域の魅力を稼げる仕組みにするための知恵と、それをみずから動かし、リードする人材の育成確保が何より必要不可欠であると認識しております。

まず、地域の知恵を導き出し、広めるための取り組みについてお答えします。

地域が有する資源はさまざまであり、所得につなげるアプローチも多様であります。そして、地域の方々が、独自の資源や魅力に気づき、それを生かす方法やストーリーを描く過程の中で、所得の確保につながる知恵が生まれてくるものと考えています。

県では、平成 25 年度から、くまもと里モンプロジェクトにより、中山間地域の振興につながる芽吹きをたくさん育ててきました。そして、そうした芽吹きを地域の大きな知恵に育て上げるため、平成 29 年度から中山間農業モデル地区支援事業を展開しています。

この事業では、モデル地区において、農業者だけでなく、地域住民も参画し、地域の強みや資源について何度も話し合いながら、地域の方々が合意した知恵を導き出すための支援を行っております。

また、その過程では、県内の大学の先生や学生に直接地域に入ってもらい、課題の抽出や

具体的な提言により住民間の議論をサポートしたり、さらには、モニターツアーを実施し、参加者からの意見やアンケートをもとに、取り組み内容の検証も行っております。

具体的な事例を紹介しますと、八代市坂本町の鶴喰地区では、このようなプロセスを経た結果、まず、米づくりに適した土壌と農家のこだわりのある栽培方法を売りに「鶴喰米」と名づけてブランド化し、産地の顔が見える販売を展開されています。また、地域の強みである冷涼な気候を生かしたアスパラガスの導入を決断し、新たな雇用につながっています。さらに、女性やお年寄りまで、誰もが活躍できるよう、地元でとれる野菜を漬物に加工したり、地元食材を使ったメニューを開発し、農家レストランにも取り込まれるなど、多彩な知恵が生み出されています。

今後は、このような成功事例をパンフレットや動画として見える化し、他の中山間地域へ波及してまいります。

次に、地域を支える人材の確保についてお答えします。

地元の方はもちろん、Uターンや新規に移住された方など、多くの方にリーダーとなる潜在的な可能性があると考えています。

そのような方々が一人でも多く地域のリーダーになっていただくため、県では、地域のコミュニティづくりから6次産業化や農泊などのビジネス化まで、幅広く学ぶことができる熊本むらづくり人材育成塾を平成 26 年度から実施し、これまでに約 300 名の地域リーダーを育成しております。

また、平成 22 年度からスタートしたくまもと農業経営塾では、本県農業のトップとなる経営者を目指し、毎年約 20 名の方が学んでおり、ここでも中山間地域のリーダーとなる人材が輩出されています。

さらに、議員御紹介の人・農地プランにおいては、今後、プランの実質化を進めることとされており、地域でのしっかりとした話し合いをもとに、将来の地域農業の担い手を明確にすることで、地域のリーダーの確保につながるものと期待しております。

加えて、中山間地域には、市町村やJA、森林組合など、地域を支える方々がたくさんおられます。

県としましては、これまで以上にこれらの方々との連携を強化し、より多くの参画により中山間地域の魅力が増し、地域の方々が誇りを持って住み続けることができるよう、全力で取り組んでまいります。

〔淵上陽一君登壇〕

◆(淵上陽一君) 先月、全国みかん生産県議会議員対策協議会出席のため愛媛県を訪れた際、西日本豪雨で甚大な被害を受けた宇和島を視察し、果樹園の被害状況や復旧方法を初め、詳細な説明を伺いました。

被災地のミカン園は、海からすぐに立ち上がった、角度 30 度を超える急傾斜地にあり、まさしく典型的な中山間地の一つであります。

被災から1年が経過した現在、ミカンを運搬するモノレールやスプリンクラーの復旧が進められておりましたが、被害が特に大きかった地域では、新たに植えたミカンが育ち、利益を生み出

すまでは、あと10年程度かかるとのことでした。

愛媛県知事並びに愛媛県議会の皆さんとの意見交換の席上で、知事から、被災後は、農業どころか、集落の住民がほかに移転されるのではと大変心配したが、ふるさと宇和島の5年、10年、20年後の将来について何度も何度も話し合いをする中で、最後には、20代から30代の若手が中心となって、農作業を受託する株式会社までできたという話を伺って、大変驚きました。

聞けば、宇和島は、もともと豊かな農業地域であり、しっかりとした農業所得のベースがあったからこそ、再編を含む復旧対策の実行に踏み切ることができたとのことでありました。

この宇和島の例が示すように、私は、中山間地域のよって立つ柱は、何といたしても農業であると思います。モデル事業をしっかりと検証し、もうかる中山間地域をつくっていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。